

「学びの風景 ～モンゴルと日本（上）～」(2004/10/05 河北新報 石森広美執筆) を読んで

1. 面白い、なるほど、と思ったこと
2. 疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったこと
3. モンゴルの街はどんなふうだと想像しますか？
4. モンゴルの地方（草原）はどんなふうだと想像しますか？
5. 遊牧民の生活と私たちの生活を比較してみよう。
6. 「家族」とは、どんな存在ですか？ モンゴルと私たちの家族像・家族観を比較してみよう。
7. モンゴルの学校と日本の学校ではどう違うと思いますか？
8. 感想を自由に書いて下さい。

年 組 氏名 _____

学びの風景

—モンゴルと日本④

石森 広美



いしもり・ひろみさん
仙台市出身。筑波大入

文学部卒。宮城県内の県立高校教師を経て1999年から3年間、シンガポールで生活し、日本語教師などを務める。2003年に復職し、現在は小牛田農林高で英語を教える。

文部省「教育のページ」に対する意見や感想をお寄せください。あて先は〒9800186仙台市青葉区五橋一丁目二ノ八、河北新報社報道部「教育のページ」係。jp

小牛田農林高の石森広美教師(三巴)は今夏、国際協力機構(JICA)主催の「教師海外研修」に参加し、八月十一日から八日間の日程でモンゴルを訪れた。現地の教育機関に加え、遊牧民の暮らしも視察。現在はこの研修で得たことを題材に、国際理解を深める授業もしている。回国の教育事情や帰国後の授業展開について三週に分けて報告してもらう。

国際理解教育の実践に
おいて、さらに経験と視
野を広げたいと思い、研
修に応募した。政府開発
援助(ODA)やJICA
Aによる国際協力の現場
を視察しながら、現地で
活動中の日本人やモンゴ
ル人教師、通訳たちとの
対話も多かった。

学校と家庭

生活が子どもも鍛える

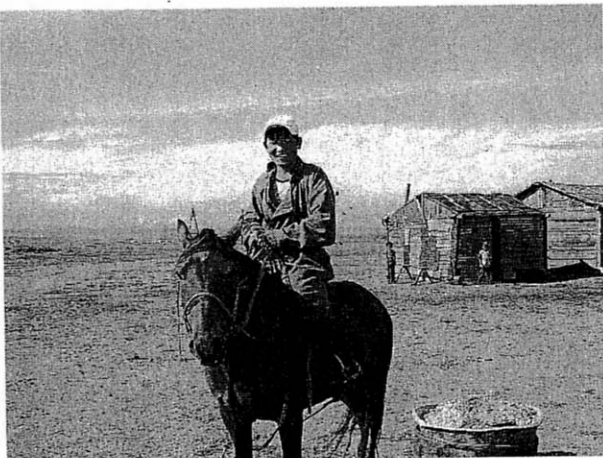
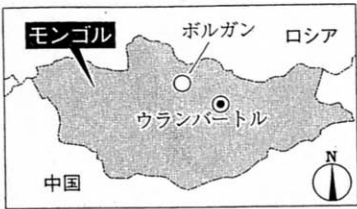
冬。豊かで厳しい自然
は、理屈なしで人をほぐ
くむ大きな力になってい
ると感じた。

出会った遊牧民の子ど
もたち。幼い兄弟を子守
する姿。馬に乗り、家畜
の世話をする少年。家族
の一員としての仕事をこ
なす。われわれの突然の
訪問に、自家製の馬乳酒
でもてなしてくれる

首都ウランバートルで
の座談会では、青年海外
協力隊などの方々から、
モンゴルの学校教育への
批判が出た。暗記中心で
実験、実技が少ない、教
師は発問せず教科書を暗
記させる、創造性を無視
し、幼稚園から先生と同
じ絵を描かなければなら
ない、モラルや公共心を

など西部の草原地方へ。
圧倒的な自然が私の心に
癒やしを与えた。「草原
に来るとモンゴル人によ
かった、と思います」。

通訳ネルグイさんの言葉
に納得する。見渡す限り



の上に自分が生きる。感
謝の気持ちがあふれてく
る。大地を汚さず、内蔵
を取り出し、最後の一杯
まで血をすくう。黙々と
行われる父と息子の共同
作業。家族が協力し、家
畜から必要なものすべて
を得る。子どもたちは、
体験を通して命の尊さや
生きる意味、感謝などを
学ぶ。

モンゴルの教育は、日
本に比べ「学校」かその
責任と役割を担う割合が
少ないようだ。施設や教
師不足からくる二部制、
三部制の学校。しかし、
ボランティアの方の言葉
を借りれば、「モンゴル
に付けるのだらう」。

モンゴルの子どもたちは、
驚くほど巧みに馬を
操る。モンゴル・ボルガ
ン県。

教育